

テーマ

よき川の暮らし、よき川の文化を 創造する

研究 名称

河川文化研究

適用 分野

民俗地理学、地域文化の
再生と創造、地域教育

氏名 所属

出口晶子 教授
文学部 歴史文化学科



内容

●特徴

河川文化を旅し、流域文化をはぐくむ

●研究内容

わたしは、河川文化のフィールド^{*}研究者です。列島の丸木舟の研究を進めるうちに、船大工の手仕事の現場を訪ね、そこから船を用いて暮らしをたてる水辺の生活者、その暮らしの景観に深く分け入る研究をするようになりました。おもに北陸の諸河川、京都の桂川、琵琶湖、そして瀬戸内海でもフィールド^{*}研究を進めています。

一昔前の川をみると、筏流しや舟運を介して川の上下流域がネットワークによってつながり、川は暮らしの場であったことがよくわかります。農業と水運のありあい、浚渫、取水や堰をめぐる攻防、防災の知恵、川遊びや川漁など、それらが相まって固有の河川文化を形成してきました。

北陸の川では、川にあがった竹を学校給食にとりいれたり、竹漕上や採捕事業の野外学習を実施しています。滋賀県では学習船「うみのこ」による湖上実習が定着していますし、桂川の保津では郷土学習

の一貫で筏流しの復元が実施されてもいます。大阪西区では淀川クルーズ^{*}の体験学習が好評です。これらは日常ではえがたくなかった船(川・湖)の視点から地域を捉えなおす試みです。

人々の語るよき川の実感とは「泳げる川」、「魚のいる川」、「釣りのできる川」などです。川中に遊ぶことや川木の活用、流域をつなぐ河川博物館

・・・などはもっと実践されてよい課題です。

これからの河川文化の創造や地域教育につながる河川文化研究を企画・調査・提案いたします。



図 新潟県荒川のサクラマスとイザナ^{*} 漁
(2007.4.)

キーワード

河川文化研究、河川文化の創造、河川博物館、地域教育

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメントート ■ 共同研究